

新年度を迎えるにあたって

経営とは営みを経て目的を達すること

- 目的を持って1年間を過ごそう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学校でも、会社でも、役所でも、桜の花が咲くと同時にいよいよ新年度である2008年度が始まりました。2008年度を迎えるにあたっての心構えを、今日はお話下さい。

A：(林明夫：以下省略)今年は例年よりも少し早目に桜が咲き、今満開となっているところも多いですが、日本ではこの桜の開花とともに、学校も、会社も、役所も新しい年度がスタートします。新年度を迎えるにあたり、これから1年間をどのように過ごそうかと、その心構えを考えることは素晴らしいことだと思います。

以前、東京の経済同友会で友人となったインタビューの小林恵智会長と経営とは何かを議論しているときに、「林さん、経営とは営みを経て目的を達することですよ」と教えて頂きました。「経営とは営みを経て目的を達すること」この小林恵智さんのことばは、新年度を迎えるにあたっての心構えとして参考になると思います。小林恵智さんによれば、「経営」ということばは仏教から出たことばで、「営みを経て目的を達すること」が「経営」であるから、「経営」という考え方は会社だけでなく、役所にも、学校にも、一人ひとりの生活にも必要な考えであるそうです。私も納得してしまいました。

Q：「経営とは営みを経て目的を達すること」ですか。興味深い考えですね。

A：大切なことは、「目的を持って生きる」ということ。その「目的」を達成するために様々な「営みを経る」ことではないかと私は考えます。

ですから、2008年度を迎えるにあたって、自分はこのような生き方をするのだという目的を持つことがまずは大切かと思います。

ものごとをするのに、目的があるのとないのとでは、1年後の結果は、月とスッポンほどとは言わなくても随分違うように思えます。

折角の年度初めですので、今年はこれをするのだ、このように生きるのだと年度の始まりのこの時期に自分の頭でよく考えて、1年後に到達を目指す目的をはっきりさせることが大事かと思えます。

Q：「目的」とは何ですか。

A：広辞苑によれば、「目的」には次の意味が2つあります。

(1)成し遂げようと目指す事柄。行為の目指すところ。意図している事柄。

(2)[哲学用語]意志によってその実現が欲求され、行為の目標として行為を規定し、方向づけるもの。

Q：例えば、どのようなことが「目的」になるとお考えですか。

A：個人であれば「よく生きる」、会社であれば「卓越した業績を目指す」などが、個人の生きる目的、会社の経営の目的となるのではないかと思います。

Q：「目的」と「目標」とは、意味が違うのですか。

A：同じく広辞苑によれば、「目標」とは、「目じるし。目的を達成するために設けた、めあて。目的(まと)。」という意味です。

小林恵智さんによれば、目的(地)に到達するマイル・ストーン(道標)が目標である。目的(地)に到達するには、道しるべ(マイル・ストーン)を1つ1つ通過することが大切。道しるべ、つまり目標を1つ1つ確実に通過することで目的(地)に到達できる、目的を達することができる。「営みを経て目的を達する」とは、「1つ1つの道標、マイル・ストーン、目標を確実に通過することで目的(地)に到達すること」という意味のようです。

2008年度は「よく生きよう」と目的を決めたなら、どのような道しるべ、道標(マイル・ストーン)を経て「よく生きる」のかを、自分でよく考えると素晴らしいと思います。

例えば、ある人にとっては、「よく生きる」ことの第一歩が「規則正しく生活する」ことだとします。「学校や会社、役所に無遅刻、無欠席、早退なしで1年間を過ごすという目標をクリアする」そのような営みを経ることで、「よく生きる」という目的を達成することになります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：自分自身で目的を設定し、その目的を達成するための道しるべ、マイル・ストーン、道標、つまり目標をつくり、1つ1つクリアしていく。これが自分の人生の「経営」。

自分自身で、例えば生きる目的を定め、その目的達成のために1つ1つの目標を立て、それをクリアすること。これが、自分自身の人生の「経営」です。

大切な自分の人生なので、自分自身の経営者になることが大事。このようなことを、小林恵智さんは「経営とは営みを経て目的を達すること」ということばで私たちに教えて下さっているような気がします。